

生物班の活動報告

兵庫県立神戸高等学校自然科学研究会生物班
松並結女 村上天太 松井千佳

●飼育している生物の紹介

・アフリカツメガエルのお母さん



1年前に何千個も卵を生んだ。元気で食欲旺盛。全長約7.0cm。

・アフリカツメガエルの子供



1年前に生まれた子ガエル。あまり成長はしていないが、食欲旺盛。全長約2.5cm。

・イモリのお父さん



色はこげ茶色で少し小柄。全長10.0mm。大人しい男の子。

・イモリのお母さん



色は茶色で大きい。全長12.5mm。活発で元気な女の子。

・イモリの子供



色はまだ薄茶色。水中の中で生活。エラ呼吸。全長2.8mm。

●アカハライモリとは

淡水に生息する両生類の一種で、**日本の固有種**。本州、四国、九州と、周囲の島に分布している。しかし、本来分布していなかった北海道や伊豆諸島などに人為的に移入されたり、きれいな水が減ってしまったために全国的に個体数が激減していたりと、問題が多くある。全長は約10cm。腹部に、**赤地に黒の斑点模様**があるのが特徴。また、脊椎動物の中でも**再生能力**が極めて高いことでも有名。皮膚、尾、肩より先の四肢、目のレンズまでも再生できる。

●イモリの飼育方法

私たちの部活ではこのような飼育をしています！

プラスチックケースにカルキ抜きをした水を約5cmはって大きめの石を1つ入れ、水草を数本入れています。2匹の幼生たちは親とは別にしていますが、小さいケースに同じようにして飼っています。そして、1週間に1、2回の水替えをしています。エサは主に**冷凍クリーン赤虫**を使っていて、2日に一度のペースで1ピースを与えていますが、親たちには時々**鶏のレバー**を与えることもあります。



●子イモリの成長

5月31日、イモリのケースの中に1個の卵を見つけました。その後5日間卵は生まれ続け、最終的には34個の卵が産まれました。私たち生物班は1匹でも多く大人に成長させようと飼育を始めました。

・6月11日 1匹孵化① 産卵から11日後

12日 4匹孵化②

13日17匹孵化③ 個体数が増えたため、1匹ずつシャーレに分け、水草を入れました。計22匹にらんちゅうのエサをあげたが、食べなかった。白濁してダメになった卵を発見。

14日 6匹孵化④

17日 4匹孵化⑤発見(土日に孵化した可能性あり)

18日 孵化なし →**孵化完了!** しかし、ダメになったと思われていた卵から孵化していた。腹部が膨らみ、ひっくり返っていた。おそらく奇形と思われる。

19日 ①、②1匹、③2匹がエサを食べた。

20日 ①、③8匹がエサを食べた。 **前足が少し伸びている!**

21日 ①、②、③4匹、④4匹、⑤がエサを食べた。

①、②はエサを前に置くだけで食べるようになった
→エサに慣れてきたのか?

25日 全ての幼生がエサを食べた! 生まれて約2週間後

奇形の幼生が死亡 生まれて1週間後(エサは一度も食べず)

その後2日に1度の間隔でエサをやり続けたが、ほとんど成長も見られず、猛暑により次々と死んでしまった。7月22日現在で25匹、8月19日には一気に2匹にまで減ってしまった。しかし!

10月8日2.6cm だった幼生のえらの部分が小さくなっていることを発見!翌日の9日にはすべてなくなり、成体の形になっていた。溺れる可能性があるため、水を高さ1cm にまで減らし、登れるような石を入れました。イモリの全長は2.3cm。3mm 小さくなっていた。

孵化してから3週間後までの全長を測り、まとめたグラフです。その後成長はほとんど見られませんでしたが、大きさはあまり変わらなかったもののえらが取れて、大人の形になりました。今回こそ、大きく成長させたいと思っています。

